

旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」 第1回会議 議事録

I 日 時 令和元年8月28日(水) 15:00~17:00

II 会 場 長野市役所第1庁舎7階 第1、第2委員会室

III 出席者 協議会委員19名

IV 議 事

・旧第4通学区「高校の将来像を考える地域の協議会」設置要綱について

【質問・意見】(→は県回答)

・高校再編のことはどうなっているのか

→ 学びについてご議論いただいた上で、再編についても議論する

・他の協議会の要綱と異なることはあるか

→ 若干はあるが、概ね同様である

・市民の関心は再編。高校再編を前提として地域協議会が開かれるのか

→ そうだが、学びの議論がまず重要である

・学びのあり方の延長線上に、高校の配置の議論もあるのか

→ 延長線上にあるとお考えいただきたい

V 議事内容

(1) 日程

2020年10月~11月頃までに、6~7回でまとめを行えるよう実施

【質問・意見】

・要綱では「高校のあり方に検討」とあり、その延長に再編と説明があったが、スケジュールについては「再編」に主眼が置かれている。整合性がないのでは？

・地域協議会は将来の高校の学びを考えるもの、「まず再編ありき」というのは疑問。

→ 協議会の中でいただいた意見を極力尊重した上で、再編整備計画を策定する。まとめでは、協議会での「学び」の議論も反映される。

(2) 「高校改革~夢に挑戦する学び~実施方針」県教委説明

●高校改革~夢に挑戦する学び~ 概要 について(内堀高校改革推進参与)

【質問・意見】

・どんな「こども」を育てたいか、わからない。

・信州にねざした確かなアイデンティティとはなにか、よくわからない。

・教材やシステムを最新になど、理想的な施策は出されている。しかし高校の授業見学をして思ったことは、教師の意識改革や研修をまず始める必要。

→ 研修等の取り組みは進んでいるが、急には変えられない。努力を続けていく。

- ・私学と公立の格差をどう考えるか。
 - ・学びの県として、学び直しの機会を確保するという視点が欲しい。
 - ・海外から移住してくる子どもたちの学びの場の保障という視点もほしい
 - ・教育関係者以外の方には難しい内容ではないか
 - ・この地期の高校ではどの高校も、地域と連携し高校教育を進めていることは実感している。高校再編をしなくても「学びの改革」は進むのではないか。
 - ・なぜ再編しなければならないのか？具体的な例を示してほしい。
 - ・要望事項 学びの多様性について、先生方の待遇改善も必要
 - ・6つの研究校の指定については、国の指定なのか県の指定なのか
 - ・できるだけ日本語をつかって欲しい（リンク、リアルなど）
日本語にすると意味に幅が広がってしまいすぎる。
→ モデル校の指定については、実施方針にあるもの。そのほかに国のモデル校もとってきたい。
 - ・先生たちの教育をしっかりとやっているか。先生ももっと勉強しなければならないのでは、先生が変われば教育も変わる。そうしないと実施方針は「絵にかいた餅」でしかない。
- 地区の状況及び実施方針について（駒瀬高校教育課高校改革推進係長）
- ・屋代南高校は以前8クラス。クラス数減は、この地域の調整弁として県教委が進めてきた。
 - ・都市部にあって駅に近い学校は貴重である。
 - ・地域と密着した学校、卒業生が地域に残るような学校（屋代南）は実績を鑑み残すべきである。例えば外国籍の方の学び直しの場合ということも考えられる。
※座長 個々の学校については、今後深めていく。今の説明について限定して
 - ・坂城高校が、「中山間地」と位置付けられていて結構。坂城高校は地元企業と連携し、また少人数教育など新しい試みをすすめている。ぜひ今やっていくことを、しっかりサポートしていただき盛り上げていきたい。

- ・流入や流出は、過去からなにか変わったのか。
- ・上位の人、中位の人、落ちこぼれの人というが、上位の人は県外へ出たまま。中位以下の子どもの8割は地元に残る。どの子も含めて社会で通用するような教育を進めてほしい。その場合、どう教育を進めていくべきか。
- ・次回はデータをしっかり出してほしい。特に他地区への流出入
→ 公開の不可がある。今後、なるべくお示ししたい。
- ・子どもたちがどのような視点で、どのような学びが必要か考えていきたい。私たちもしっかり理解する必要である
- ・坂城町から千曲市に外国人の子弟が増えている。彼らが日本語を学べる場としての学校を考慮してほしい。
- ・学びの改革が進めば、再編は必要ない。
- ・地域の一人として、地域の力を取り入れて長野の子どもたちは長野で育てたい。